

18 本州中央部広域交流圏の形成について

長野県の状況

【国土交通省】

● 本州中央部広域交流圏の形成

- 長野県の地理的な優位性を発揮し、北陸・リニア中央の二つの新幹線と高速道路網を基軸とした高速交通ネットワークを最大限に活用する「本州中央部広域交流圏」を形成し、東日本と西日本、太平洋と日本海とを結ぶ大規模な流動の創出を目指している

取組

○ 県内外の地域や拠点の交流・連携促進のため、長野県広域道路交通計画に基づき、整備を推進

・ 高規格道路

- 中部横断自動車道 : 環境影響評価、都市計画決定の手続きを実施
- 中部縦貫自動車道 : 松本波田道路の橋梁工等、波田～中ノ湯間の整備検討会
- 三遠南信自動車道 : 飯喬道路の橋梁工等、青崩峠道路のトンネル工等
- 伊那木曾連絡道路（姥神峠道路（延伸）区間） : 調査設計を実施
- 松本糸魚川連絡道路（安曇野道路区間） : 調査設計を実施
- （大町市街地区間） : ルート帯決定に向けた調査、地元説明会
- 上信自動車道（県境部） : ルート帯決定に向けた調査（群馬県と連携）

・ 構想路線

松本佐久連絡道路・上田諏訪連絡道路 : 整備方針に関する基礎調査

・ 一般広域道路及びその他主要な道路

- 一般国道20号 諏訪バイパス : R5新規事業化、調査設計を実施
- 一般国道153号 飯田南バイパス : R5新規事業化、調査設計を実施
- 一般国道153号 伊駒アルプスロード : 調査設計、関連道路の設計

<取組状況>

○ リニア中央新幹線の整備効果を広く波及させるための構想の実現に向けた取組及びリニア関連道路整備事業を推進

- ⇒ リニア開業を見据えた地域振興に関する取組を推進（広域二次交通や広域観光など）
- ⇒ 長野県駅に直結するアクセス道路の整備（R3.3 座光寺スマートIC供用）

○ J R東海が進めるリニア建設工事に伴い、地元市町村では地域住民との調整を実施

- ⇒ J R東海が行う工事や発生土置き場等に係る地元との調整



課題

- 平常時・災害時を問わない安定的な輸送の確保が必要
令和3年8月の大雨では、土砂流出等に伴い中央自動車道や一般国道19号等の主要幹線道路の通行止めが多数発生
- 本州中央部広域交流圏の実現のため、高規格道路のミッシングリンクの解消等の早期整備が必要
- 高速交通網の整備効果を広く波及させる、一般広域道路の整備促進とその他主要な国道、県道、市町村道の整備が不可欠
- 構想路線を高規格道路に位置づけ、整備推進が必要
- リニア整備を国土の発展に活かすため、「日本中央回廊」の形成に向けた積極的な取組が不可欠
- リニア関連の基盤整備は、地元自治体の財政負担が過大



提案・要望

1 高規格道路のミッシングリンク解消及び構想路線の整備推進

本州中央部広域交流圏を形成する、高規格道路 中部横断自動車道・中部縦貫自動車道・三遠南信自動車道等の事業中区間の早期完成と未整備区間の早期事業化を図ること

また、伊那木曾連絡道路 姥神峠道路（延伸）の事業推進、松本糸魚川連絡道路 安曇野道路の事業推進及び未整備区間の早期事業化に向けた重点支援を行うこと

さらに、上信自動車道は権限代行により調査を行うこと

関東ブロック新広域道路交通計画において構想路線に位置づけられた松本佐久連絡道路・上田諏訪連絡道路について、高規格道路としての整備に向けた調査支援を行うこと

2 道路のダブルネットワーク強化及びその他主要な道路の整備推進

一般国道18・19・20・153・158号の直轄道路事業及び権限代行事業を着実に進めるとともに、県が実施する一般国道143号青木峠バイパス、木曾川右岸道路等の整備推進のために必要な予算を確保すること

また、一般国道153号の県内全線を指定区間に編入すること

3 リニア関連基盤整備事業の国重点施策への位置づけと財政支援

リニア中央新幹線に関連する道路等の基盤整備及び市町村が行う駅周辺のまちづくりや環境調査等について、十分な予算配分や地方負担に対する財政支援を講じること